



次期京都市自転車総合計画の策定について

コンセプト等

- 前計画の「共存」と比べ、「共生」という言葉には、お互い一緒に生きていくというような関係の密接性が高まり、思いが非常にこもっている。
- 「くらしでの共生」における「活用」の部分について、何か京都らしいモデル、アイデアが生み出せないか。
- 「ひと」「まち」「くらし」に関して「共生」とあるが、都心部において自転車をどのように使うか、自転車と歩行者との関係はどうなるのか、真剣に考えていく必要がある。

ひととの共生

<安全教育・啓発>

- 年代や属性に合わせて、継続的に行っていくことが重要である。
- 未だに自転車に乗っている人の中には、ルールを守っていない人が多い。マナーの良し悪しではなく、自転車事故を起こさせないためにも、「ルール違反」だと言うことが大切だと思う。
- 京都市におけるサイクルセンターの整備やそこでの自転車教室の内容は、全国的にも注目されている。

<大学生への啓発>

- 大学生協と協力したり、入学直後のオリエンテーションの場を活用したりするなどして、特に大学1年生への教育の強化が必要である。

<電動アシスト自転車>

- 電動アシスト自転車は、特に子どもが後ろに乗っているような場合、大変重く押して歩くことが難しい。扱い方は自転車教室でもしっかりと教えるべきである。

まちでの共生

<駐輪環境整備>

- 駅前の放置自転車は減っているが、まちなかの商店やコンビニエンスストア周辺での放置は目立っている。まちなかでの小規模駐輪場の設置など、より効果的な対策を工夫してもらいたい。

<走行環境整備>

- 経年劣化により路面表示が薄くなった場合、表示はあくまで自転車の走行ルールを示すものという点から、全ての表示を再度塗り直す必要はない。
- 路面表示には、車道の左側走行を示す矢羽根と、交差点で注意喚起するものとの2種類があるので、うまく使いこなしてもらいたい。

くらしでの共生

<観光>

- 京都市観光協会のHPの「京都自転車観光ガイド」は、駐輪場の最新マップや自転車の走行ルールなどが掲載されて分かりやすくまとまっている。

<シェアサイクル>

- シェアサイクルがあると人々が所有する自転車の台数が減り、放置自転車も減る流れができて良いと思うが、利用される区間が分散されるようにするなど、対策を考える必要が出てくる。
- 公的機関がシェアサイクルを進めるときは、公共用地の提供などのサポートのほか、公共交通の補完という意味から、効率性を高めることや移動が不便な場所を補完するなどの考え方が重要である。

<災害対応>

- 災害対応に自転車を活用するため、災害時の協定を締結する相手方は、シェアサイクル事業者ではなく、京都市が認定しているレンタサイクル事業者を選ぶ方が良いのではないかと。

その他

<交通事故>

- 子どもの自転車事故のうち、重傷・死亡の件数をゼロとすることを強く意識し、それが教育と直結していることを見えるようにするのが良いのではないかと。